

詩編 34 : 2~23

ユダの手紙 20~21

「信仰の上に築き上げる教会」

【招詞】 イザヤ書 35 : 1~2

【讃美歌】 27 「父、子、聖霊の」

【詩編交読】 詩編 38 編

【赦しの宣言】 イザヤ書 55 : 7 「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。

わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してくださる。」

【讃美歌】 355 「主をほめよ、わが心」

【祈祷】 天の父なる神さま

今朝も、わたしたちに新しい命、新しい朝、新しい主の日を備えてくださり、一人一人の名前を呼んで、この礼拝に招いてくださったことを、心から感謝いたします。

これから共に、聖書の御言葉を聞きます。聖霊なる神さまが、語る者、聞く者に豊かに働いてくださり、わたしたちの目を、耳を、心を開いてください。そして、御言葉を通して、あなたの恵みの御心を、深く悟ることが出来るよう導いて下さい。この礼拝の中心に、生きておられる復活のイエスさまがいて下さり、豊かな交わりに与かって、わたしたちの信仰がますます力強く励まされますように。そして、聖霊によって新しくされ、今日から歩み出す一週間を、神さまの御心に従って歩む者とならせて下さい。

このお祈りを、主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン

【聖書】 詩編 34 : 2~23、ユダの手紙 20~21

【説教】 「信仰の上に築き上げる教会」

<教会の年間聖句>

ユダの手紙 20 節にはこうあります。「しかし、愛する人たち、あなたがたは最も聖なる信仰をよりどころとして生活しなさい。聖霊の導きの下に祈りなさい。」

この箇所は、宮崎中部教会の 2024 年度の年間聖句です。今日は、礼拝の後に、教会総会が行われます。そこでは毎年、年間聖句と教会標語を覚えます。

ですから今日は、この年間聖句の御言葉を、礼拝で共に聞きたいと思いました。

教会総会は、神さまの御言葉のもとで、祈りを合わせ、昨年度の一年間の歩みを、悔い改めと感謝をもって振り返るときです。

また、新年度の神さまのご計画を見つめて、わたしたちがその一步一步を、神さまの御心に、心から従っていけるように、祈りを合わせる時です。

宮崎の地でなされる神さまの救いの御業に、喜んで仕えていくことができるように。そして、イエスさまの救いに与ってこの群れに加えられる方が、一人でも多く与えられるように。心を一つにして、思いを一つにして、共に祈っていきたいのです。

さらに今年度は、来年の2月に、教会創立100周年を迎えます。これは、地上を歩むわたしたちにとっては、一つの大きな節目です。

100年ものあいだ、主の日の礼拝が、一日も欠かすことなくささげ続けられた。それは、ただただ、神さまの祝福と恵みによることです。また、その時その時に、教会に連なっていた信仰の兄弟姉妹たちの、礼拝を大切に思う思いと、熱い祈りによることです。

この100年間、宮崎中部教会は、戦争があっても、コロナ禍があっても、時代が移り変わっても、神さまの御手によって、支えられ、守られ、導かれてきました。

そして、今日もここで、わたしたちが礼拝していること。これは、イエスさまの救いがまことであり、神さまが生きて働いておられることの、まぎれもない証拠です。

ですからわたしたちは、またこれからの新しい100年も、この群れが、神さまの祝福と恵みに満ちた、力強い救いの御手にあって、支えられ、守られ、礼拝をささげ続けていくことが出来る。そう固く信じる事が出来ます。

そして、今のこの時代は、ここにいるわたしたちが、礼拝を心から大切にして、熱心な祈りをもって、この教会に、この礼拝に、仕えていく番でもあるのです。

神さまの御言葉に養われながら、わたしたちも神さまの恵みに応答して、教会のために、伝道のために、仕え、共に祈っていきたいと思います。

そして、そのような中、特に今年度は、教会に大きな変化が与えられようとしています。それは、牧師が代わる、ということです。

長老や、教会員は、基本的に一つの教会に留まり、そこで長く仕えていきます。しかし、牧師は、神さまの御心によって、時や状況に応じて、神さまが召される教会に、派遣されていくのです。

わたしも、そのようにして、ここに遣わされましたし、また、そのようにして、次のところへ遣わされる予定です。そして、この教会には、神さまがいよいよこの教会に祝福を増し加えるために、選び、召し出してくださった牧師が、遣わされてくることでしょう。

神さまが、日本、世界、すべての教会を顧み、それぞれにもっとも良いご計画をもって、ふさわしい歩みを備えてくださいます。

どうか、そのことを信じて、共に祈っていただきたいと思います。

でも、どのような変化があろうとも、教会の頭が、主なるイエスさまであることは、永遠に変わりありません。イエスさまの救いの恵みが、教会の土台であり、わたしたちを力強く支えて下さることは、これまでも、これからも、永遠に変わることがありません。

イエスさまが、わたしたちを支えてくださるなら。わたしたちが、このイエスさまの信仰を、よりどころとするなら。わたしたちの教会は、どんな変化があっても、何が起ころうとも。恐れることなく、揺らぐことなく、しっかりと立って、歩んでいくことが出来るのです。

ですからこの一年は、ユダの手紙の「しかし、愛する人たち、あなたがたは最も聖なる信仰をよりどころとして生活しなさい」。この御言葉を、特にしっかりと心に留めて、教会の歩みを進めていきたいと思うのです。

#### <危機の時>

さて、「ユダの手紙」は、新約聖書の中でも、あまり馴染みがないかも知れません。

このユダというのは、イエスさまを裏切った、十二使徒のイスカリオテのユダではありません。1節には「イエス・キリストの僕で、ヤコブの兄弟であるユダから」とあります。このヤコブというのは、イエスさまの兄弟であったヤコブです。そのヤコブの兄弟なので、このユダもまた、イエスさまの兄弟ということになります。

しかし、実際には、イエスさまの兄弟ユダの名前を使って、他の人物が書いたとされているようです。

とにかく、著者はどちらにせよ、この手紙は、教会の人々を励ますために書かれたものです。それは、当時の教会の中で、本来のイエスさまの福音とは異なる教えが入ってきて、教会が揺らぎ、分裂しそうになっていたからです。

教会が、「危機」に直面している状況だったのです。

…同じように、変化したり、これまでと違うことが起こることもまた、教会にとって、わたしたちにとって、大きな危機となることがあります。

これまでと違うことが起こる。それには、予告があることもありますし、自分で何かを選択して、変化が起きることもあります。また、望んでいないのに、突然やってくることもあります。

何かが変わってしまうこと。変化が起きること。教会であっても、個人であっても、それは、新鮮さや期待をもたらす場合もありますけれども、多くの場合は、わたしたちの心を動揺させ、恐れや不安を抱かせることが、多いと思うのです。

心のどこかに、恐れや不安を感じたとき。危機を感じたとき。わたしたちは、波風の無い、平穏な日々が、どれだけ恵まれていたものであったかに気付かされます。

それは、神さまが豊かな恵みと憐みをもって、わたしに与えて下さっていたものであったのだと、気付かされます。

しかしまた、それが取り去られることもあるのだと、知ることになります。

世のものごとも、存在するものも、状況も、時代も、この世で、永遠であるものは、何一つありません。変化しないものなど、何一つありません。

そのように考えるとき。わたしたちは、もしかしたら、自分が、いつどうなるか分からない、薄氷の上を歩いているような。何か、とつても壊れやすいものの上を歩いているような。そんな不安な感覚を覚えるかも知れません。

変わらない日常が、当たり前ではないこと。穏やかさや、健やかさが、当たり前ではないということ。

…それは一方で、わたしたちには、いつ危険や困難が襲い掛かっても、おかしくない、ということなのでしょう。わたしたちは、よく世間の人と言う、「一寸先は闇」と言われるような世界を、かろうじて歩いている、ということなのでしょう。

<信仰をよりどころに>

…いいえ、そうではありません。わたしたちが歩んでいるのは、「一寸先は闇」と言われる世界ではありません。

わたしたちは、神さまが御子イエスさまを遣わしてくださり、救いの光で照らしてくださった、神のご支配が既に始まっている世界を、歩んでいるのです。

ですからユダは、危機の中にある教会に、信仰者たちに、このように語りかけるのです。

「愛する人たち、あなたがたは最も聖なる信仰をよりどころとして生活しなさい。」

たとえ、この世界が闇のように見えても。わたしたちの目の前に、不安や恐れを覚えさせるような出来事が起こっても。それらが、わたしたちを支配しているのではありません。それらには、わたしたちを捕らえたり、飲み込んだりする力はありません。

わたしたちをまことに支配し、捕らえているのは、神さまだからです。

わたしたちは、今すでに、イエスさまが実現してくださった、神さまの救いの恵みの中に、置かれているからです。

だからユダは、「最も聖なる信仰をよりどころとして生活しなさい」と言うのです。

「よりどころ」という言葉は、建物を「建てる／建て上げる」という意味の言葉です。

つまり、「信仰の上に、あなた自身を建て上げなさい」、「信仰の土台の上に、あなたの生活を建て上げなさい」と言っているのです。

「信仰」とは、神さまに信頼すること、神さまにより頼むことです。

神さまは、揺るがないお方。動かされないお方。永遠に、変わらないお方です。

だからこそ、この方により頼んで生きる。だからこそ、この方をよりどころとして生活するのです。そうするなら、わたしたちは、神さまの確かさによって。神さまの揺るぎない強さによって。危機の時にも、困難の時にも、しっかりと建つことが出来るのです。

…ユダは、決して、信仰をよりどころとしたなら、危機を避けることができる。困難もなく、穏やかに生きられる、とは言っていません。

ユダが手紙を送った教会だって、信仰者の集まりなのに、誤った教えが入り込み、信仰を揺るがされ、分裂しそうな危機が、起こってしまっているのです。

信仰者だからといって、この世で、人生で、さまざまに起こる出来事から、逃れることは出来ません。また、罪を犯さず、完璧に生きられるわけでもありません。

わたしたちは、救われてもなお、罪の誘惑と戦いながら、自分の弱さと向き合いながら。また、悪や死の力を目の前に見つめながら、この世を歩んでいかなければならないのです。

でも、その目の前に迫る、困難な現実の中にあっても。わたしたちは、もうイエスさまのものとされていて、永遠にこの方から離されることはないという、救いの事実があるのです。目に見えない、神さまの救いの恵みの現実が、わたしたちの感覚ではとらえられなくても、ずっと力強く、ずっと確かに、わたしたちを支配しているのです。

この恵みを、この確かさを、わたしたちの土台とするのです。この恵みを、わたしたちのよりどころとするのです。

そうするならば、わたしたちは、決して、揺り動かされることはないのです。

それは、わたしたちが、しっかり立っているからではなくて、固く立っておられる神さまが、わたしたちをしっかりと支えて下さるからです。

信仰をよりどころとする、信仰を土台とする、というのは。わたしたちが、強い思いで、揺らがない信仰心をしっかり持つ、という意味ではありません。

わたしたちは、しっかりしていないのです。意志も弱いし、疑い深いし、罪深いし、どうやっても自分で立ってられないのです。

しっかりしておられるのは、揺らがないのは、固く立っておられるのは、この世のすべての中で、ただ神さまお一人だけです。

でも、だからこそ、わたしたちは、この方を頼ることが出来る。信じる事が出来る。よりどころとする事が出来るのです。

いや、もはや、このまことの神さまの他には、世界のどこにも、よりどころとなるものは、何一つないのです。

この方に寄り縋らなければ、わたしたちは立つことさえ出来ません。でも、この神さまにこそ、寄り縋るなら。この神さまをこそ、よりどころとするなら。わたしたちは、しっかりと、固く立ち。迷わず、揺らがず、歩むことができるのです。

#### <愛の中に>

そして何より、わたしたちが、この方をよりどころとするのに、決定的なことは。神さまが、わたしたちを愛してくださっている。そのことが、はっきりと知らされている、ということです。だから、わたしたちは、安心してより頼むことができるのです。

どれだけ強くても、絶対的なお方でも。もし神さまが、冷徹で、情け容赦ないお方であったなら。わたしたちは、御許に近づくことが出来ないし、安心して頼ることも、より頼むことも、できないでしょう。

そもそも、神さまがそのようなお方であったなら、罪を犯し、恵みを忘れ、自分勝手に歩んでいるわたしたちは、とうに滅ぼされているかも知れません。

でも、神さまは、わたしたちを心から愛してくださり、深く憐れんでくださり、必ず恵みを与えてくださる方であると、わたしたちは知らされています。

だからこそ、わたしたちは、安心して神さまの御許に行き、身を寄せて、救いを求めて、すべてを委ねて、この方を、よりどころとすることが出来るのです。

…でも時に、わたしたちは、神さまの愛が分からなくなる時が、あるかも知れません。

危機に直面するとき。困難がやってきたとき。悩みや苦しみを覚えるとき。どうして神さまは、こんな目に遭わせるのだろうか。どうして神さまは、わたしを悩ませ、苦しめるのだろうか。どうして神さまは、何もしてくださらないのだろうか。そんな風に思って、愛を疑ってしまうことがあるかも知れません。

確かに、神さまは、わたしたちの信仰を成長させるために、試練をお与えになることがある、と聖書には語られています。

しかし、神さまが、わたしたちを意味もなく苦しめようとされたり、冷たく見放されたり、むやみに悲しませたりなさることは、絶対に、決して、ないのです。

もし、わたしたちが、「神さまどうして」と思うことがあるなら。神さまは、わたしを愛しておられるだろうか、と疑うことがあるなら。

わたしたちは、常に、神さまの御心を現わしてくださった、神の御子イエスさまのお姿を、見つめなければなりません。あの、十字架と復活のイエスさまに、立ち帰らなければなりません。

なぜなら、ただイエスさまだけが、父なる神さまの御心を、神さまのわたしたちへの思いを、すべて、完全に現わしてくださったお方だからです。

イエスさまを見つめてください。イエスさまは、わたしを悩ませ、苦しめられたことがあったでしょうか。わたしのために、何もしてくださらなかったでしょうか。わたしをお見捨てになったでしょうか。とんでもありません。

むしろ、わたしたちが、神さまの御心に背くことで、この方を悩ませ、苦しめたのです。

それなのに、この方は、そのようなわたしたちのために、罪を代わりに背負い、苦しみと死を引き受け、十字架に架かって死んでくださいました。

そして、わたしたちの代わりに、神さまに見捨てられる苦しみを、十字架の上で、たったお一人で、味わってくださいました。

イエスさまは、わたしたちの、あらゆる苦しみを、悲しみを、恐れを、不安を、死を、すべて引き受けてくださり、すべてをその身に負われました。

イエスさま以上に、本当の悩み苦しみを、本当の痛みを、本当の孤独を、知る者はありません。イエスさま以上に、罪の裁きの厳しさを、神さまに見捨てられる絶望を、知る者はありません。

すべては、わたしたちが、罪の果てにいようと、絶望の底にいようと、どこまでも共にいてくださるため。そして、わたしたちを罪から、悩みから、苦しみから、死から、解放してくださるために、イエスさまが成し遂げてくださったことなのです。

イエスさまの苦しみと十字架の死に示されているのは、そのように、わたしたちのためになら、ご自分が苦しみを受け、死ぬことさえ、喜んで受け入れてくださる愛。わたしたちを救うためなら、何でもしてくださる、あまりに大きな神さまの愛なのです。

このような愛を注いでくださる神さまが。ここまでして、わたしたちを救ってくださる神さまが。わたしたちの日々の困難のときに、わたしたちの人生の苦しみのときに、恐れや不安を覚えるときに、助け、守り、慰めてくださらないはずがありません。

神さまは、いつでも、どこでも、神さまの全力を注いで、イエスさまの命を注いで、わたしたちを救い出し、生かし、守り、支えてくださるお方なのです。

だから、わたしたちは、そこまでわたしたちを愛してくださる、この神さまの愛を頼って、信じて、よりどころとすることが出来るのです。この方の愛の中で、わたしたちは、生かされ、支えられ、建てられていくことができるのです。

ユダの手紙の 21 節には、こうありました。「神の愛によって自分を守り、永遠の命へ導いてくださる、わたしたちの主イエス・キリストの憐れみを待ち望みなさい。」

…「神の愛によって自分を守りなさい」とあるのです。わたしたちは、神さまの愛によって、自分を守るのです。

自分の力で、自分を守るのでも、自分の信念で、自分を守るのでもありません。

わたしたちを守るのは、神さまの愛なのです。イエスさまの十字架の死と復活にあらわされた、あの愛が、わたしたちを守ってくださるのです。

<祈り>

…そして、その直前の 20 節後半にはこうありました。「聖霊の導きの下に祈りなさい」。

神さまの愛によって守られ、聖なる信仰をよりどころとする生活は、神さまの御言葉と、祈りによって築かれます。

わたしたちは、聖霊の導きの下で、礼拝をささげ、御言葉を受け、祈りをささげることによって、イエスさまの救いの御業を知り、神さまの大きな愛を知り、信仰を与えられて、神さまにより頼む生活、神さまをよりどころとする生活を、築き上げていくことが出来るのです。

そしてわたしたちは、21 節後半にあるように、「永遠の命へ導いてくださる、わたしたちの主イエス・キリストの憐れみを待ち望」むのです。

永遠の命。それは、神さまと、いつまでも共に生きる命のことです。イエスさまが、その命へと、わたしたちを導いてくださいます。

十字架の死によって、わたしたちの罪も、苦しみも、死も、重荷をすべて負ってくださったこの方が、復活し、すべてに勝利なさったその御力で、わたしたちを、神さまと共に生きる命へと、神さまの御国へと、導いてくださるのです。

ですから、わたしたちが、弱くても、小さくても、揺らいでも、イエスさまが共にいてくださるなら、大丈夫です。わたしたちの歩みの一寸先は、闇ではないのです。

イエスさまが共に歩んでくださる、わたしたちの一步一步は。神さまの大きな愛の中で、聖霊に導かれつつ、神の国へ向かう、救いの完成へ向かう、恵みと喜びへいよいよ近づいていく、そんな祝福された一步一步なのです。

時に、先が見えず、不安を覚えることがあります。大きな変化に、戸惑うことがあります。思わぬことに、恐れを感じる場合があります。

でも、共に歩んでくださるイエスさまは、わたしたちの歩みを、これまでも、今も、これから、ご存知でいてくださいます。神さまは、わたしたちを祝福し、栄光に与らせ、ご自分のすべての恵みを受け継がせようと、良いご計画の内に、わたしたちの歩みを定めておられます。

わたしたちには、先のことまで見通すことは出来ません。でも、神さまの良い御心が、恵みのご計画が、必ず実現するということは、確信をもって信じてよいのです。希望を持って良いのです。

ですからわたしたちは、聖霊なる神さまの導きの下、心を一つにして、祈りを合わせ、礼拝をささげていきたいのです。そして、神さまの愛の中に守られ、聖なる信仰をよりどころとして生活し、神さまの恵みとご栄光を現わす群れとして、力強く建て上げられていきたいのです。

#### 【お祈り】 天の父なる神さま

あなたの愛の中で、わたしたちが守られていること。イエスさまが、いつも共にいてくださること。救いの恵みをよりどころとして歩む生活が与えられていることを、心から感謝いたします。

しかし、わたしたちは、弱さのゆえに、罪のゆえに、目の前の現実を目や心を奪われて、困難や、不安や、恐れを覚える場合があります。

どうか、どのような時にも、聖霊の導きによって、祈ることが出来ますように。

そして、あなたの愛の中に置かれているこの群れが、共に礼拝をささげ、共に祈りをささげ、聖なる信仰をよりどころとして、あなたの愛と恵みの土台の上に、力強く築き上げられていくことが出来ますように。

このお祈りを主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン

#### 【讃美歌】 392 「主をほめよ、わが心」

#### 【信仰告白】 ニカイア信条



【十戒】

【献金】 6 5 - 1 「今そなえる」

【主の祈り】

【祈祷】 天の父なる神さま

聖霊の導きの下で、あなたの愛の中に守られて、イエスさまの十字架と復活によって生かされているわたしたちが、共に祈り、共に御前に礼拝をささげることが出来ますことを、心から感謝いたします。

今日は、礼拝後に教会総会が行われます。あなたの御心を知り、あなたの恵みのご計画を見つめ、わたしたちが心をつにして、悔い改めと感謝をもって、歩いていくことが出来ますように。あなたの救いを土台として、ただ、あなたにより頼んで、この教会が、ますます固く、恵みに建つことが出来ますように、お導きください。

そして、この教会に連なる一人一人が、困難の中にあっても、弱さを覚えるときにも、共にいて支えてくださるイエスさまに、慰められ、癒され、励まされつつ、生活のよりどころをあなたに置いて、祈りと礼拝を中心として、共に歩いていくことが出来ますように。

今日ここに集うことのできなかつた、愛する兄弟姉妹を覚えます。主よ、どうぞあなたが、聖霊によって御言葉を届け、この礼拝の祝福と恵みに、共に豊かに与らせてください。

また、この礼拝に新しく招かれている方たちを覚えます。どうか、御言葉を通して、まことの神であるあなたを知ることが出来ますように。聖霊の導きによって、イエスさまを、わたしの救い主、わたしの主として受け入れ、まことの信仰へ、洗礼へと、導いて下さいますように、お願いいたします。

神さま、この世界を、どうぞ顧みてください。愛し合うことが出来ず、共に生きることが出来ず、傷つけ合っている人々の罪、わたしたちの罪を、お赦してください。あなたは、わたしたちが、神さまを愛し、また互いに愛し合って生きることを望んでおられます。どうか共に、イエスさまの罪の赦しの十字架の御許に立って、互いに赦し、愛し合う者となることが出来ますように。この地に、わたしたちに、どうか、あなたの御心がなりますように。そして、小さくされている者、弱い者、年老いた者たちを、御手をもって助け、守り、お救い下さい。一日も早く、平和と癒しが与えられますことを、心から祈り願います。

また、そのためにも、世に立てられた、イエスさまの体なるすべての教会が、神さまの愛を、イエスさまの救いを、大胆に、力強く、告げ知らせしていくことが出来ますように。そして、神さまの愛に守られ、神さまをよりどころとして歩む喜びを、証ししていくことが出来ますように。

このお祈りを、主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン

【讚美歌】 2 8 「み栄あれや」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らしあなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けてあなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。アーメン